

## 研究成果の紹介

### さや 莢が美しい枝豆専用黒大豆新品種「ひかり姫」の特長を活かした生産振興

「ひかり姫」の主な特長は、①ウイルス病抵抗性を持ち、茶斑莢が極めて少なく、莢が美しいこと、②丹波黒枝豆より収穫時期が1週間程度早く、9月下旬から出荷可能であること、③2粒莢が多いことである。2021年度は県下17地域約5.0haで栽培され、道の駅、直売所、スーパー等で販売が計画されている。

#### 内容

「丹波黒」は兵庫県を代表する極大粒の黒大豆であるが、ダイズモザイクウイルス（以下、SMV）に感染しやすく、収量が低下するため、生産現場から対策が強く求められていた。そこで、当センターでは、2002年に丹波黒「兵系黒3号」とSMV抵抗性をもった「東山黒175号」を人工交配させ、新品種「兵系黒4号」を育成し、2016年3月品種登録出願した。本品種は「丹波黒」の遺伝的背景を93.8%有し、「丹波黒」とほぼ同等の枝豆特性を備えている。主な特徴は莢が美しく、収穫が9月下旬であり、1粒莢が少なく2粒莢が多いことである。

本品種の現地適応性を確認するため、2016年度から養父市で3aの現地試験を開始した。2019年度から、県育成の「さとっこ姫」「黒っこ姫」「茶っこ姫」に続く、4番目の枝豆品種（図）として、試作試験を開始した。また、販売する際の愛称を広く募集し、全国253点の応募から「ひかり姫」に決定し、2020年9月に商標登録された。2019年度は県下6地域（約0.8ha）、2020年度は県下11地域（約2.2ha）で試作を行った。その結果、枝豆の収量は623～822kg/10aであり、10a当たりの収益は労賃を考慮しない場合、72万～94万円/10aと試算された。また、食味評価でも「美味しい」と好評を得た。2021年度は県下17地域で栽培され、面積は約5.0haまで拡大する予定である。また、一部の地域では省力化に向けて、脱莢機、選別機、

自動袋詰め機等も導入予定である。枝豆は9月下旬から10月上旬にかけて、スーパーや地元直売所に専用幟<sup>のぼり</sup>をたて、パッケージには専用シールを貼り付けて、販売される（写真）。

#### 今後の方針

2021年度まで試作を行い、種子の供給体制を確立したうえで、2022年度からは一般栽培を行う。また、県育成の他の枝豆品種とのリレー出荷を含めて、普及を図る。

杉本 琢真（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2412）

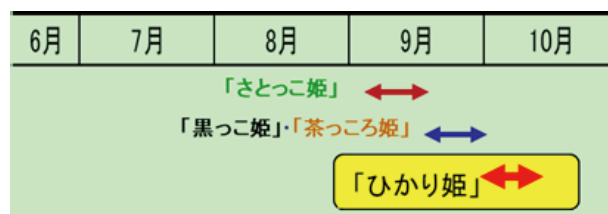


図 枝豆4品種のリレー出荷



写真 「ひかり姫」の外観と専用幟とシール、PR用の動画のQRコード